

例年にないほど早く梅雨が明けるとすぐに猛暑となり、夏らしい日々が続いています。私にとっては少し苦手な季節ですが、夏にしか見られない生き物が多いため、かえってあきる野の自然を調べる意欲が出てきます。

夏になると、甲虫や夏鳥に対して特に興味がわき、無意識のうちにこれらに目が行ってしまいます。そして今年は、市内に生息する希少な野鳥を詳しく調べることにしました。その鳥の名前は「サンコウチョウ」です。

サンコウチョウは日本の夏鳥で、主に里山環境で生息する貴重な鳥です。東京都のレッドリストでは絶滅危惧種にも選定されています。オスは特に美しく、目の周りの青い輪や長い尾羽はとても特徴的です。

平成22年から25年にかけて、市内の10か所でサンコウチョウを確認していますが、今年5月から7月にかけて行った調査では、この中の8か所で確認することができました。これらの生息場所は繁殖場所にもなっているようです。

里地・里山環境に位置すること、沢、針葉樹林と雑木林が存在し、ある程度混み合っている植生環境が見られることや、民家などの人が活動する場所が周辺にあることなど、全ての生息場所において、ほぼ同じ環境条件がみられました。

大変美しい声で鳴くサンコウチョウは、小型で数の少ない野鳥であり、今後もさらに個体数が減少する可能性があります。繁殖するために毎年同じ場所を選ぶことから、確認された生息地点周辺の生息環境を守る必要があると思います。

里山の身近な生き物で、日本の特徴的な「夏の音」の一つであるサンコウチョウが、ずっとこの先もあきる野で繁殖してほしいものです。

(パブロ)



サンコウチョウ(オス)